



思いつづける

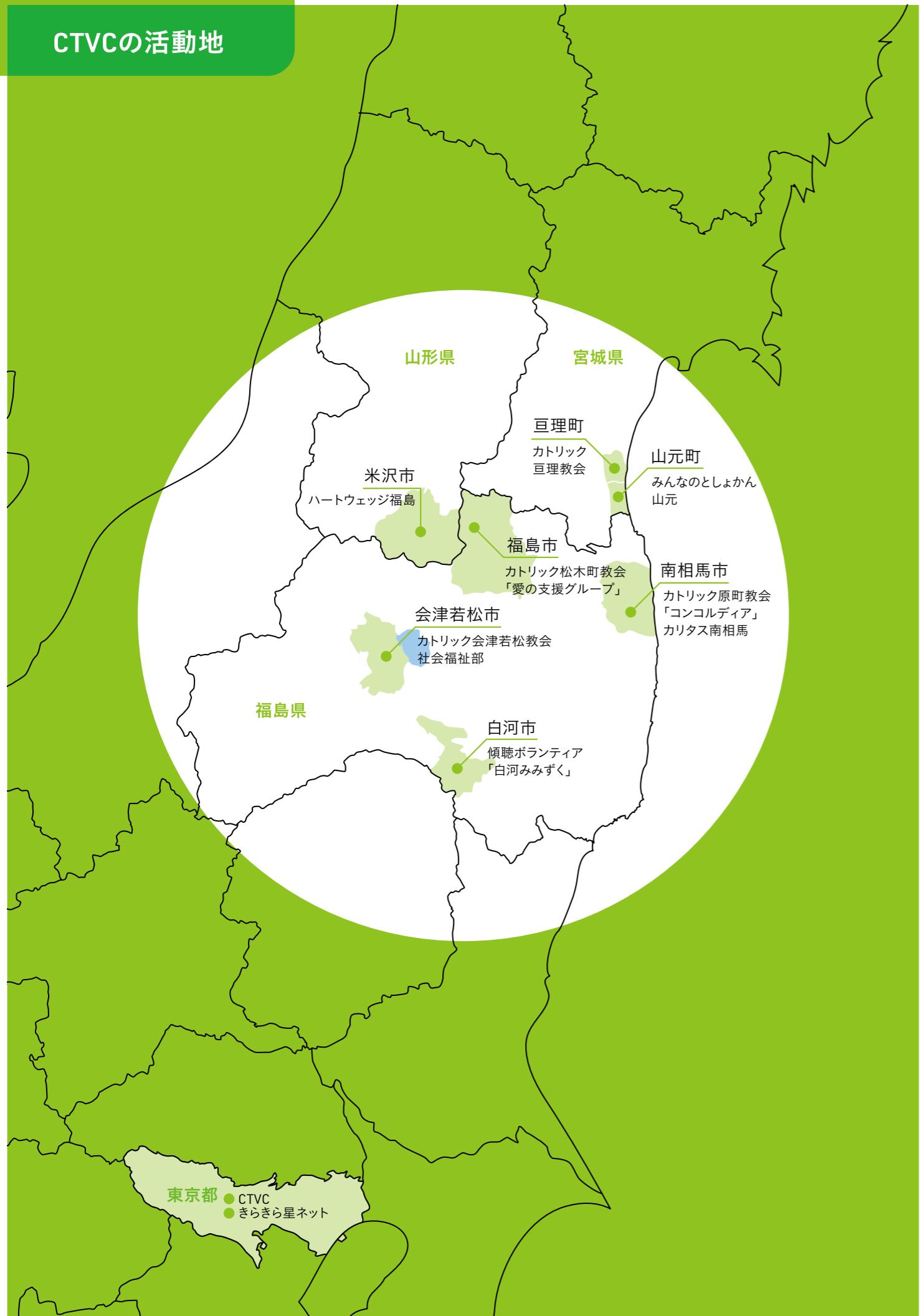
3.11

「10年の活動に感謝を込めて」

CTVC

カトリック東京ボランティアセンター

CTVCの活動地



展望と希望を回復させる友人として

司教協議会東日本復興支援担当 東京大司教 菊地功



さまざまな思いが交錯した10年でした。

2011年3月11日に大震災が発生し、その直後の3月15日には、カリタスジャパン関係者が仙台入りし、平賀司教様はじめ、仙台教区の方々とその後の支援について話し合いました。当時のさいたま教区長である谷司教とわたしも同行しましたし、今では新潟教区長となった成井司教はその後、仙台に残って復興支援活動の立ち上げに尽力されました。

そのときには誰ひとりとして、教会の復興支援活動が10年も続けられるとは想像もしていませんでした。その後、3月の末になって司教団は、全国16教区をあげて被災地支援を行うことを決定し、カリタスジャパンが国内外の募金を集約して、側面から活動を支える体制ができあがりました。また東京、大阪、長崎の三つの管区に地域を割り振り、支援を集中させることも決められました。ただ、東京教会管区については、札幌、新潟、さいたま教区が、それぞれ仙台教区と隣接していることもあり、管区一体となっての活動ではなく、個別の教区が支援を行うことになりました。

そういうわけで、東京教区では、その年の4月にカトリック東京ボランティアセンター(CTVC)が立ち上がり、主に福島や宮城県南部における復興支援活動に取り組んできました。

さまざまな出会いがあり、さまざまな別れがあり、さまざまな喜びがあり、さまざまな悲しみがあった10年だったと思います。

活動を開始するとすぐ、短い期間で終了することは出来ないと肌で感じるようになります。司教団も、全国の教会をあげての支援活動を10年間は継続すると決めたのもそのためです。

2019年11月に来日された教皇フランシスコは、東北の被災者との集いで、いみじくもこう話されました。

「一人で『復興』できる人はどこにもいません。だれも一人では再出発できません。町の復興を助ける人だけでなく、展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です。」

教会は、「展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹」でありたいと願っています。ただ過ぎ去っていく存在ではなく、歩みをともにする存在でありたいと思います。

教会全体としての支援活動は10年をもって終わります。CTVCも10年をもって解散となります。しかしそれで復興支援活動が終わるのではなく、生まれた結びつきをさらに強め、さらに育む新たな歩みの始まりであると思います。幸いCTVCの活動から、カリタス南相馬が誕生しました。その誕生に関わった教会として、東京教区はこれからも東北の方々と歩みを共にしていきたいと思います。

出会いに感謝！



カトリック東京ボランティアセンター 責任者 幸田和生

東日本大震災発生直後、東京のカトリック関係者で現地に入った人々の中に、釜石ベースにボランティアに行った真生会館学生センターの学生たちや仙台教区サポートセンターの立ち上げに協力したJLMM(当時の「日本カトリック信徒宣教者会」)の事務局スタッフがいました。彼らは東京に戻ってから、首都圏からのボランティアが被災地に行きやすくなるような仕組みを作りたい、と東京教区に申し出ました。その提案をもとに4月24日、復活祭の日に、カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)は動き出しました。フランシスコ会が六本木の修道院の一室を事務所として無償で提供してくださったことは、大きな助けとなりました。この寛大な協力は結果的に10年間に及びました。

日本のカトリック教会全体の被災地支援体制(いわゆるオールジャパン)の中で、2011年6月から、わたしたちCTVCの活動地域は、主に宮城県南部と福島県ということになりました。CTVC主催のボラパック(パック型のボランティアツアー)を宮城県亘理町・山元町や福島県各地で行い、首都圏から多くの方が参加してくださいました。中でも福島市郊外の宮代仮設住宅へのボラパックは多くの回数を重ね、そこで浪江町から避難してきた方々との出会い、そして、福島市の教会の方々との協力は、今も形を変えて続いている。また、福島第一原発から北へ30km圏内の南相馬市原町区に、震災の翌年2012年6月にCTVCカリタス原町ベースが開設され、多くのボランティアに利用していただくようになりました。そこは今、「一般社団法人力タス南相馬」となり、震災から10年を超えてこれからもその地の方々とともに歩んで行こうとしています。また、福島や宮城の被災地の方々の声を首都圏の人々に直接届ける講演会シリーズ「福島から語る」「被災地から語る」など、さまざまな企画にも多くの方が参加・協力してくださいました。

CTVCに関わったわたしたちは、被災者の皆さんとの出会い、ボランティア同士の出会いを宝として、これからもそれぞれの場で歩んでいきたいと思います。一人一人は小さな力でも、人と人が力を出し合うことによって、そこから人は大きな力をいただくということを知ったからです。それは支援される側も、支援する側も変わりありません。

CTVCが10年間の活動を終えるにあたり、これまでご協力、ご支援くださった皆様に、そして出会わせていただいたすべての皆様に心からの感謝を申し上げます。

沿革

2011年	4月24日	カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)を開設 3月11日に起きた東日本大震災を受け、東京教区からJLMM(日本カトリック信徒宣教者会)事務局や真生会館のボランティアが仙台教区に入り、被災者・避難者の支援のため協力を始めた。東京教区はJLMM、真生会館とともに支援活動を継続的に行うため、フランシスコ会聖ヨゼフ修道院内(東京都港区六本木)に事務局を設置し、被災地ボランティアの募集・派遣、物資支援などを開始した。一方、日本カトリック司教団は全国の教会が総力をあげて、被災地支援することを決めた。東京教会管区は宮城県南部と福島県全域の支援活動を担当することに決定。それを受け、CTVCでは福島県福島市、白河市、南相馬市、会津若松市、福島県から山形県や首都圏に避難されている家族の支援、宮城県亘理郡での活動を開始。
	4月28日	第1回連絡会 カトリック東京ボランティアセンター設立趣旨説明
	6月	宮城県・岩手県に開設されたカリタスベースへのボランティア派遣・広報
	6月14日	福島から首都圏への避難世帯支援開始
	9月4日	CTVCニュース第1号発行。2012年1月からは月一回発行(後に「CTVCかわらばん」に改称)
	10月21日	福島ボラパック(福島県福島市でのボランティア活動)開始
	11月11日	亘理ボラパック(宮城県亘理町・山元町でのボランティア活動)開始 白河ボラパック(福島県白河市でのボランティア活動)開始
2012年	2月23日	福島県内の支援グループによる「福島ブロック会議」発足
	3月11日	南相馬市北泉海岸にて追悼の祈り
	5月	講演会シリーズ「福島から語る／被災地から語る」開始
	6月1日	CTVCカリタス原町ベース開設(福島県南相馬市)
	12月1日	「福島デスク」開設に協力(二本松教会に設置)
	12月	福島県会津若松市での避難者支援開始
		広報活動の強化／東京教区ニュースに報告記事連載始まる／ホームページ開設
2013年	3月11日	追悼・復興祈念ミサ(麹町教会)
	5月11日	「復興支援ふれあいフェスタ」開催(東京・聖心インターナショナルスクール)
	11月11日	亘理町支援グループによる「チーム亘理」発足
2014年	3月11日	追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」(麹町教会と南相馬市同慶寺を中継でつなぎ、共に祈る)
	10月	福島県から山形県米沢市への避難者支援開始
2015年	3月11日	多言語サイト「Voices from FUKUSHIMA!」配信開始
	12月	追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」(閑口教会) 白河市における支援活動終了
2016年	3月11日	追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」(閑口教会)
	12月17日	講演録「福島から語る」発行 カリタス原町ベース移転、カリタス南相馬に改称
2017年	3月11日	追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」(閑口教会)
		福島市宮代応急仮設住宅の閉鎖にともない、仮設住宅における活動を終了。 その後も形を変えてかかわりを継続。
2018年	3月11日	追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」アニメ「無念」上映(上智大学)
2019年	3月11日	追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」(閑口教会)
	4月22日	一般社団法人力タス南相馬設立総会
	11月25日	教皇フランシスコの東日本大震災被災者との集いへの協力・参加
2020年	3月11日	新型コロナウィルス感染拡大の影響で予定されていた活動がすべて中止、 またはオンライン配信となった。 【オンライン】追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」(閑口教会)
	9月5日	【オンライン】CTVC講演会シリーズ「福島から語る」配信開始
2021年	3月11日	【オンライン】追悼・復興祈念行事「思いつづける3・11」 CTVC活動終了
	3月31日	

ともに生きる

被災者支援

東日本大震災発災後、被災地では、教会や地域の支援グループなどが、自らも被災者でありながら、いち早く地域の避難所や仮設住宅を訪ね、被災者の方々に寄り添いながら、その必要に応えるための支援をされていました。

地震や津波被害により避難された方々、福島第一原発事故による避難指示区域から避難された方々、避難指示区域外から避難された方々など、それぞれに抱える状況や課題はさまざまでした。地域の支援グループは、その一人ひとりに丁寧に寄り添い、必要とされた支援を行なっておられました。その方々を支え、一緒に活動させていただくというのが、CTVCの基本的な姿勢でした。そのため、主に首都圏でボランティアを募り、専用のワゴン車で被災地を訪問、各地でボランティア活動に参加する「ボラパック」を企画、福島県福島市、白河市、南相馬市、会津若松市、宮城県亘理町、山元町、山形県米沢市などで地域の支援グル



農業祭・復興黄色いだるま販売(白河市) 2012年11月

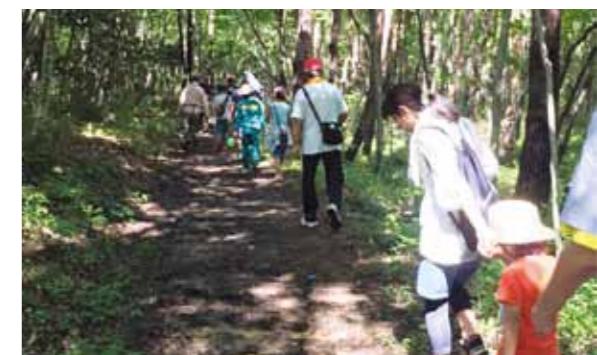
ープと協働して、支援活動に参加してきました。活動の内容は、10年の間に刻々と変化していきましたが、仮設住宅に避難されている方々に向けた、定期的なお茶のサロンや傾聴活動、お正月、お花見や夏祭りなどの季節を祝うイベントの実施、日用品など生活物資の支援、農家の手伝いなど多岐にわたります。また、仮設住宅から復興公営住宅などに移られた方々ともつながりを続け、家庭訪問や年に数回の集いなどを行い、被災された方々一人ひとりとの関わりを大切に続けてきました。また、被災地での関わりが、防災・減災のための大きな学びの場ともなりました。こうした被災地での活動には、個人での参加だけでなく、学校や小教区のグループなどによる仮設住宅でのお食事づくりや物資支援など、さまざまなかたちでたくさんのご支援をいただきました。



自主避難のお母さんたちと菱巻きづくり(会津若松市) 2014年5月

ともに活動したグループ(順不同・敬称略)

福島県 福島市	カトリック松木町教会 「愛の支援グループ」
白河市	傾聴ボランティア「白河みみずく」
会津若松市	カトリック会津若松教会社会福祉部
南相馬市	カトリック原町教会「コンコルディア」 カリタス南相馬
山形県 米沢市	ハートウェッジ福島
宮城県 亘理町	カトリック亘理教会
山元町	みんなのとしょかん山元



米沢の自主避難家族グループのサマーキャンプ(仙台市) 2015年8月



請戸川リバーラインでの花見会(浪江町) 2017年4月



亘理町仮設住宅での「わたりカリタスカフェ」(亘理町) 2014年11月

活動地協力団体(宮城、福島、山形、東京)※順不同・敬称略

NPO法人福島やさい畑～復興プロジェクト、NPO法人亘理いちごっこ、青巣稻荷神社、いちごの絆会、一般社団法人希望の牧場・ふくしま、一般社団法人ふくしま連携復興センター、一般社団法人南相馬農地再生協議会、援助マリア修道会南相馬修道院、小高工房、おてら災害ボランティアセンター(テラセン)、お弁当きく邑、カトリックいわき教会、カトリック大河原教会、カトリック角田教会、カトリック郡山教会、カトリック白河教会、カトリック白石教会、カトリック長井教会、カトリック二本松教会、カトリック野田町教会、カトリック原町教会、カトリック松木町教会、カトリック米沢教会、株式会社WATALIS、株式会社川俣町農業振興公社、きらきら星ネット、傾聴ボランティアさくら、県内自主避難連絡会、工房あえり、コングレガシオン・ド・ノートルダム花園町修道院、里山ねっと赤坂、桜の聖母短期大学、さゆり幼稚園、社会福祉法人南相馬市社会福祉協議会、聖ドミニコ女子修道会青野木修道院・ドミニコの家、聖母訪問会檜葉修道院、曹洞宗同慶寺、曹洞宗普門寺、竹屋菓子店、小さき花幼稚園、知足庵、和みサロン眞こころ、浪江まち物語つたえ隊、橋元商店、パスタ専門店コパン亘理店、福島第一聖書バプテスト教会、ふくしま民話茶屋の会、フルハウス、マイファーム宮城亘理農場、マリアの宣教者フランシスコ修道会原町修道院、マリアの宣教者フランシスコ修道会亘理修道院、八木山オリーブの会、山元タイム、山元町震災復興土曜日の会、やまと復興応援センター、やまと民話の会、亘理町被災者支援課仮設住宅班、亘理町立荒浜中学校

ともに生きる

カリタス南相馬（旧:CTVCカリタス原町ベース）

南相馬との関わりは、カトリック原町教会を訪ねることから始まりました。初めて訪ねた2011年7月当時、教会のある原町区は緊急時避難準備区域に指定されており、教会に来る人も少ないとことで、教会のミサにともにあずかること、支援活動を行うよりも前に、つながることを大切にしてきました。そうして約1年後、2012年6月1日、CTVCカリタス原町ベースが開所しました。カリタス原町ベースは県内外からボランティアを受け入れ、地域社会福祉協議会と協働し、長期避難で荒れた家の家財道具の片づけや庭の草刈りを行うほか、仮設住宅集会所でサロンに参加したり、野菜配布を行うなど地域のニーズに応える活動を行ってきました。仮設住宅には原発事故による避難者だけでなく、津波で家を失った方もおられましたが、数年のうちに、新しい住居を取得したり、復興公営住宅や災害

公営住宅に入居したり、元の自宅に戻るなどして、仮設住宅は縮小されていきました。それに伴い、帰還に向けた準備、また、避難指示解除後も避難を続ける方々に向けた支援など、活動は多岐にわたりました。

カリタス原町ベースは、地域に根づき、長期的なかかわりを続けるため、2016年12月に「カリタス南相馬」としてカトリック原町教会の敷地内に移転し、2019年4月には一般社団法人大リタス南相馬としてCTVCから独立しました。

カリタス南相馬は、国内外からのボランティアを受け入れ、ボランティア活動のコーディネートを行っています。また、地域住民の交流の場の提供とイベントの企画・運営を行っています。さらに、この地域への来訪者に対して、大震災及び原発事故による被災地等の案内も行っています。



シスターぐるーپの野菜配り
2015年6月



サロンでの手芸
2017年10月



相馬野馬追参加のボランティア
2017年8月



さゆり幼稚園園児ともちつき
2020年1月



長年ベースを支えてくださったシスター



犠牲となったバトカーの前で祈り(被災地案内)
2018年9月

2012年6月、CTVCの活動として「カリタス原町ベース」は始まり、2019年4月「一般社団法人大リタス南相馬」として独立致しましたが、独立後もずっと変わらずCTVCの皆さんに支えられ共に歩んで参りました。活動を共にする中で特に心に残っているのは、コスマス宮代のイベントにおけるCTVCスタッフ皆さんのパフォーマンスで、お腹を抱えながら笑い合う参加者の皆さんの姿が昨日の事のように思い出されます。カリタス南相馬における夏祭りや音楽コンサートなど、イベントの際も大変助けて頂きました。またボラパックにおいては、台風災害ボランティアや相馬野馬追祭りの行列ボランティアなど参加希望の皆さんを東京発着で南相馬まで案内頂くことができ、被災地域の方には大きな支えと励ましとなり、地元の方々に大変喜んで頂くことができました。

カリタス南相馬が現在も活動を続いているのは、CTVCの協力と共に全国の皆様のご支援と祈りの

支えがあるおかげです。心から感謝しております。CTVCは3月で活動終了となります。カリタス南相馬は今後も原発被災地である福島県浜通りを中心に活動を継続して参ります。今後もどうぞ引き続きご支援とご協力をよろしくお願い致します。感謝の内に…

一般社団法人大リタス南相馬 所長 南原摩利

[カリタス南相馬スタッフ]

南原摩利、吉岡知子(援助マリア修道会)、畠中千秋(聖心会)、山田雅之、佐藤久絵、福田仕、佐藤英男、庄司エルリン

[元スタッフ]

早川節子(聖霊会)、久松カズエ(聖霊会)、菊地綾乃、内藤千早、伊藤望、米澤朋英、大鶴純子、佐々木趙穎、鈴木玲子



つたえる

アドボカシー

被災地の状況とニーズについての情報を多くの方々に伝え、共有し、支援の輪を広げることはCTVCの大切なミッションととらえ、さまざまな形で情報発信を行いました。

●追悼・復興祈念行事 「思いつづける3.11」

毎年3月11日には、地震発生時刻に合わせ、東京カテドラルなどにおいて追悼・復興祈念ミサと関連行事を行いました。毎回700名もの方々にご参列いただき、被災地に想いを寄せ、ともに祈るひと時を持ちました。



「思いつづける3.11」
2015年3月

●講演会

福島県や宮城県南部の被災・避難された方や地域で支援活動をされている方をお招きし、講演会「福島から語る」、「被災地から語る」をシリーズで開催、体験やメッセージを直接語っていただきました。講演録はCTVCホームページと多言語サイト「Voices from FUKUSHIMA」に掲載し、福島など被災地の直面している課題を日本全国や世界に発信しています。また、コロナ禍ではオンライン講演会として配信を行いました。



「思いつづける3.11」被災地からの奉納品に祈りを込めて



福島から語る(桜井勝延さん講演) 2019年6月

●情報発信

毎月発行の「CTVCかわらばん！」で活動を報告するとともに、ホームページやメーリングリスト、Facebookでボランティア募集や支援物資の募集、支援イベントの最新情報をお知らせしました。東京教区ニュースでは毎月、カトリック新聞では随時、活動に関する記事を掲載しました。

また、年度報告書を発行・配布し、ホームページにも掲載しています。



福島から語るオンライン講演会(柳美里さん講演) 2020年9月

連携

福島県では、各地で活動する教会の支援グループが「福島ブロック会議」を通して、情報共有や活動の分かち合いを行い、お互いに励まし合いながら、連携を深めてきました。同様に、宮城県亘理町でも、地域で支援活動を行う県内外の教会グループ、団体により「チーム亘理」が結成され、情報共有や、活動の協働などを行いました。

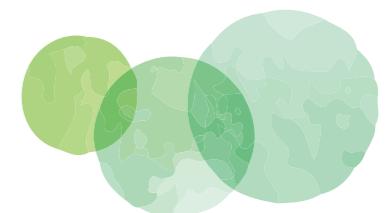
また、被災地の商店や地元グループとつながり、特産品や手工芸品などをバザーやイベントで紹介しました。特に2013年5月に開催した「復興支援ふれあいフェスタ」では、東京のボランティアグループによるブースの出展に加え、被災地から多くの方が駆けつけてくださり、被災地と東京の思いをつなぐイベントとなりました。商店や地元グループとは、実際にお店を訪ねてお話を聞くなど、さまざまな形で連携しました。

CTVCの活動は、首都圏の小教区、修道会、学校、その他さまざまなグループによって支えられました。

[その他、連携したグループ]

日本カトリック司教協議会 東日本大震災仙台教区復興支援室(オールジャパン)、仙台教区サポートセンター、カリタスジャパン、カリタス石巻ベース、カリタスいわき(仮称)、カリタス大船渡ベース、認定NPO法人力リタス釜石、一般社団法人力リタス南三陸、NPO法人障がい者自立センターかまいし、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)、ふくしま連携復興センターなど。

つながる



聖心女子大学チャリティデー 2018年6月

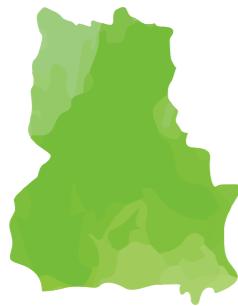


復興支援ふれあいフェスタ 2013年5月



カリタス全ベース会議 2020年1月

ともに活動・連携した グループからのメッセージ



福島県
福島市

カトリック松木町教会 「愛の支援グループ」代表
鈴木キミ子さん

皆様との出会いに感謝!!

2011年7月22日は3.11の次に忘れない日。それは、CTVCの幸田司教様方が当教会を訪れられた日。その頃、原発事故による放射能が福島市にも飛散していました。私たちは流出物写真洗浄(相馬市へ)や県営あづま総合体育館避難所への物資支援活動の舟を漕ぎ出し始めました。その様な中で、心のケアの必要を感じ、避難所のロビーで温かい抹茶や野の花の「もてなしの傾聴」を始めました。教会名は、表向きにできない雰囲気から「ふれあい茶の湯ボランティア」としていました。幸田司教様は、ボランティア活動の写真をご覧になって「一緒にやりましょう」と力強く話され、「カリタスジャパンの名で活動するとやり易いかも」とも。私たちは、避難所の8月閉鎖後について考えていたときでしたので正に救いの言葉。その年の9月から相馬市大野台、福島市宮代仮設へと繋がっていました。カリタスジャパンのご支援を受け、CTVCの泣くも笑うも一緒の思いの活動に支えられ、東京教区からの沢山のボランティアさんとご支援にどれほど勇気と励ましをいただけましたことか。笑顔を届けているはずの私たちも元気になれました(写真)。この誌面をお借りしてCTVCとボランティアの皆様、そして被災地に来られない人たちのお祈りとご支援に心から感謝申し上げます。

今は、コロナ禍にあってコスモス宮代の皆様への訪問や集いもままならないですが、私たちが以前より発行している「カリタスからのおたより」が唯一の心のふれあいとなっています。記録写真も整理できました(写真)。福島にお越しのときは、松木町教会にぜひお寄りいただいてご覧いただければ幸いです。新たな心のふれあいが生まれるかもしれませんね。

お待ち致しております。

喜びと感謝のうちに。



傾聴ボランティア「白河みみずく」代表
金澤弘子さん

心を尽くし まことを尽くし 礼を尽くし わざを尽くし
膝をかがめ 目前のこの方の 気懸りを 全身全靈で聴く
魂を聴く傾聴が 最善最良の 最後の支援であり
聴くことは 役に立つと信じて 聴くことは愛すること。

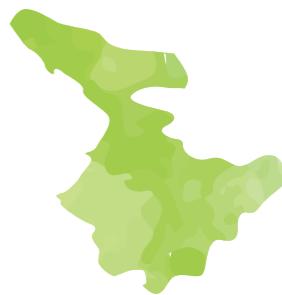
これは、「白河みみずく」の傾聴理念です。

傾聴にあたり、果たして受け入れて頂けるだろうかと、強い不安と恐れを持ちながらも、神様と共にいるという信仰が私たちを支え、それを乗り越えることができ、7年間もの傾聴活動が続けられました。

やりどころのない怒りを「みみずく」に吐き出した方、仮設退去間際に助けを求めてお声をかけてくださった方、最後には感謝の言葉を口にされました。私たちは、被災者の苦しみ・怒り・絶望をひたすら聴かせて頂くため、毎週毎週、仮設に行けたことは、我ながらびっくりです。CTVCの支えもあって、おいしく楽しいイベントも開かせて頂きました。

使い上手な「神様」・使われ上手な「みみずく」・助け上手な「CTVC」。この絶妙なコラボがあって、人間技とは思えない活動が成し遂げられました。振り返れば、あくまでも中心は「神様」でした。

私たちが、忘れてはならないことは、復興住宅入居後も「東電と政府は謝りもせず、話は聞くだけで何もせず、俺たちが死ぬの待っているだけ…。」と、あきらめ顔で話す、心の復興がないがしろにされたままのこの被災者の方々のことではないでしょうか。「白河みみずく」は福島を風化させません。



福島県
白河市



ともに活動・連携した グループからのメッセージ

カトリック原町教会 信徒会長
高野郁子さん

CTVCの皆様と原町教会…感謝を持って

初めてCTVCの方々とお会いしたのは、東日本大震災後の2011年7月の土曜日だったように記憶しています。ノートのメモによれば「幸田司教様、シェガレ神父様、漆原さん、辻さん、梅津神父様と小林副会長と高野と原町教会の事務室で会う。」と。私は、お話をした内容について具体的に記憶にありませんが、以下のことだけは覚えています。

「何が一番必要ですか？」

と尋ねられ、

「信者さんが避難して減ってしまったので共に祈って欲しいです。」的な内容でした。

私は、放射線量がまだ高い地域に、交通の不便な地域に、なんて無理な要求をしているのだろうかと思いました。ところが、その年の9月4日にCTVCボラパックご一行様がおいでになり、その後も続けておいでになりました。また幸田司教様が東京で講演され、お話を聞いた方々がどんどん訪ねてくださるようになりました。

以来、思いがけない不思議なことが沢山起り、小さな教会の聖堂が多くの人々で満たされました。CTVCには別なことでも助けられました。原町教会便りや避難者への手紙を印刷してその方々へ送って下さる役目もして下さいました。

CTVCからは言葉では言い尽くせない沢山のご支援をいただきました。勇気を持って行動することや目標や希望を持つことや視野を広げることを学びました。本当に感謝です。



福島県
南相馬市



カトリック会津若松教会 社会福祉部
品川美枝さん

活動を通して多くのことを学びました。

*ボランティアをした経験があると、直ぐに行動に

*情報を受けとめ、眞実を見抜く感性

*多様性を認める柔軟な心と知恵

*人のために行動する時、抵抗する言動に臆さない

*悩み、苦しみを持ち続けると、周りの人まで巻き込み、

前が見えにくくなる

百万円にものぼる支援をしてくださった団体や、死を前にした老人が送ってくださったクリスマスカード

支援の品々を一つ残らず書き留めたノートは熱い思いを今も放っています。

ありがとうございました。

「自主避難者の会」は4年で解散しましたが、その後、少人数でお茶会をして今に至っています。

ある日のお茶会で仲間の一人が「私たちはこの祈りをしてきたのよ」と、「東日本大震災被災者のための祈り」を彼女たちと一緒に祈りました。その時「私たちのためにずっと祈っていてくださったんですね」と涙を流されました。

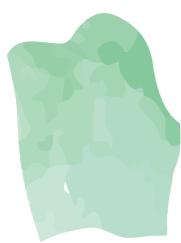
心に届く働きをしたのは祈りでした。

関わることで得たものは沢山ありますが、10年後のこれからも、誰にでもできることは祈りかもしれません。



福島県
会津若松市





宮城県
亘理町

カトリック亘理教会
長嶋治夫さん

被災地にある小さな教会より「10年に感謝」

CTVCは、東日本大震災から10年という長い間、亘理・山元地域での復興支援活動が行われてきた。その活動にあたって、私たちの亘理教会を活動の中継の拠点として活用していただいた。亘理教会でお祈りをして、仮設訪問、被災地イベントへと向ったのです。それは、私たち亘理教会も支援活動にあたかも参加しているようにも思いました。そして、ボランティアの方々のパワーによって、亘理教会が元気になった、その力が、亘理教会を新しい教会に生まれ変わる基になったと、本当に感謝しています。

振り返ってみると、CTVCとの出会いは、2011年11月亘理教会での「亘理ふれあいマーケット」支援者200人、被災者320人の一大イベントだった。その場にCTVCの山崎さんが居た。その出会いがあって、その後のCTVCの活動が亘理教会を利用するようになったのです。また、亘理教会の2階でも宿泊できるようにと布団等を準備してくれました。お陰で、CTVC以外の方も利用することが出来、支援者の拠り所としての役割を担うことにつながってきた。

目黒星美学園と被災した荒浜中学校に表敬訪問、偶然にも生徒会の副会長との交流ができ、その後は、両校同士で連絡を取り合い交流が続いたと伺っています。また、仮設の被災者の方が「女性さんと話しきるのが楽しい。そして、文のやり取りもしたのよ。」と嬉しそうに語ってくれました。どれも素敵なお話です。CTVCが派遣する若いボランティアの清々しいパワーを感じます。そして、亘理教会の3.11東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願ミサには毎年必ずCTVCの方が参加され、亘理町にある震災記念碑へ、そこでゴスペルの歌声が心地よく響きました。いいな！

CTVCの皆さん10年間亘理地域へのご支援ありがとうございました。
感謝と祈りをこめて



みんなのとしょかん山元 館長
菊地慎一郎さん

早いもので震災から間もなく10年。なんともスペシャルで新幹線のごとく通り過ぎた日々でした。

震災当日、気仙沼から山元まで必死の思いでのドライブの最中に見えたのは、異様に輝いていた星空でした。そして白々と日が昇り始めた頃、住み慣れた町のまるっきり変わってしまった光景が目に飛び込んできました。堤防が破壊され、松林も家も田畠も流され、こんな近くに海があったのだと思い知らされた朝でした。

それから半年、家の復旧に追いまくられ、いつの間にかこの地域で最初に家に戻ることができたこと、これもひとえに地域の友人知人たちのおかげと今でも感謝しています。

その友人たちは震災から3年後に設立された「みんなのとしょかん山元」のメンバーとして活躍しています。今や図書館は地域の核となる存在です。昨年、敷地の一部に遊具を設置したところ、子どもたちがたくさん遊びに来てくれるようになりました。

私たちメンバーの最大の仕事は、「3.11追悼の夜」の開催です。この山元だけでも700人もの住民が亡くなりました。亡くなった方々の魂を少しでも和らげられたらとの思いで、毎年3月11日の夜に図書館の敷地内で竹明かりや絵灯籠を灯しています。これには当初からCTVCの皆様にはいろいろな形で絶大なご協力をいただき、大変感謝しております。

さて、最後に一言。どんな災害が起きようと自分の命だけは大切にしましょう。命さえあればあとは何とかなります。



宮城県
山元町

ともに活動・連携した グループからのメッセージ

ハートウェッジ福島 代表 湯野川政弘さん

「お父さん、なんで一人で行っちゃうの…！」
「置いて行かないで…！」

朝は、福島に出かける私の車の後を裸足のまま・パジャマのままで、泣きながら追いかけてくる幼い末娘を振り切るように、私は心を鬼にしてアクセルを踏み込み仕事に出かけました。

帰りは、雨の日も風の日も、真っ暗な駐車場で、私が戻るまでずっと待っていてくれ、帰ってきた私の車を見つけると、

「おかえり、ずっと待ってたよ…！」

と言って、いちもくさんに駆け寄ってくる3人の子供たちの姿を、私は今でも忘れられません。

これは、自主避難したばかりの頃の出来事です…

平成23年3月11日、東日本大震災・福島第一原子力発電所の爆発事故の放射能の不安から、少しでも子供たちの被曝を避けるために、福島市から山形県米沢市へ家族5人で自主避難をしてから、早いもので10年になります。

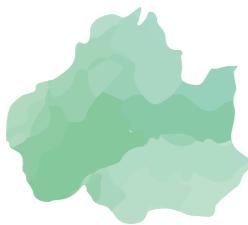
私は、片道約60キロ・1時間半の道のりを、毎朝6時半に出発して、帰りは21時に戻るという生活を9年間続け、昨年4月に子供たちの進路に合わせて家族みんなで福島の自宅に戻ってきました。

避難生活中は『ハートウェッジ福島』という団体を結成し、自主避難者の方々との親睦会や支援団体の方々との交流・支援活動の受け皿としての活動を行ってまいりました。

支援物資の配布活動や芋煮会・お花見会などのイベントを通して、CT VCの皆様をはじめご支援頂きました皆様方には大変お世話になりました。

このご恩は一生忘れる事はありません。

心より感謝申し上げます、ありがとうございました。



山形県
米沢市

きらきら星ネット 代表 岩田鐵夫さん

きらきら星ネットの活動のスタートは2011年4月に私が所属する聖イグナチオ教会の近くの旧赤坂プリンスホテルに福島第一原発事故によって多くの家族が避難されたことが交流が深まった大きな要因になりました。その夏休みに子どもたちが勉強する部屋・交流会など教会のホールを貸していただき、また避難住宅への引越し時に不足する家具の提供をして下さいました。

その後毎年、東京周辺では交流会・クリスマス・サマープログラム・相談会・展示会を、又いわき・福島市・山形市・米沢市でもクリスマス・交流会を定期的に行ってきました。

また2013年3月11日には首都圏の避難者たちが「福島原発被害東京訴訟」を提起し国と東京電力を相手に裁判が始まり裁判の傍聴や署名活動などの応援を行ってまいりました。

2019年3月教皇フランシスコとバチカンでの謁見、11月教皇来日時に避難者・被災者との集会は避難生活の中で苦しんでいた少年が、その苦しさを教皇様に聞いて欲しいとの小さな希望が多くの方のご協力で大きな夢が実現しました。それは私たちにとっても大きな、大切な体験でした。

そして2020年には新型コロナ感染拡大によって多くのイベントが中止となりましたが、NHKの朝ドラマ「エール」に因み、春とクリスマスに「エール便」として多くの家族に贈り物を届けることができました。これからも彼らに寄り添い活動を続けたいと思います。



東京都



協力者紹介

10年間の活動を行うにあたり、被災地や都内でのイベントのボランティア、物資支援やご寄付、講演会や追悼行事への参加、お祈りを通して、大変多くの皆様にご支援いただきました。心から感謝申し上げます。ご支援いただいた皆様への感謝の意を表し、団体名を掲載させていただきます。

なお、団体名につきましては、敬称を略させていただき、個人名につきましては、個人情報保護のため割愛し、ご参加人数のみのご報告とさせていただきます。



学校関係

浦和明の星女子中学・高等学校、小林聖心女子学院、小林聖心女子学院小林みころ会、学校法人明の星学園、学校法人星美学園、カリタス小学校、カリタス女子中学高等学校、関東学院六浦中学校・高等学校生徒会、熊本信愛女学院幼稚園、札幌聖心女子学院高等学校、城星学園高等学校、白百合女子大学、白百合女子大学国際交流団体Cosmopolite、白百合幼稚園、聖光学院中学校・高等学校、聖心インターナショナルスクール、聖心女子学院、聖心女子学院教員有志、聖心女子学院五月会、聖心女子学院みころ会、聖心女子大学、聖心女子大学災害復興支援チャリティデー実行委員会、聖心女子大学マグダレナ・ソフィアセンター、聖心同窓会東北支部、清泉女子大学、清泉女子大学ボランティアラーニングセンター、聖ドミニコ学園小学校、聖マリア学院小学校、聖靈女子短期大学、聖靈女子短期大学付属高等学校、専修大学国際協力サークルSIA、仙台白百合女子大学、調布星美幼稚園、田園調布雙葉高等学校、東星学園、豊川市立天王小学校、新潟清心女子中学高等学校、福山暁の星女子中学・高等学校、不二聖心女子学院、不二聖心女子学院同窓会ドウシェーン会、雙葉学園同窓会、雙葉小学校、聖園女学院高等学校、聖園幼稚園、明治学園小学校、目黒星美学園中学高等学校、目黒星美学園書道部、目黒星美学園同窓会さつき会、八代白百合学園高等学校、横浜雙葉小学校、横浜雙葉中学高等学校、レジナ幼稚園、レジナ幼稚園父母の会



カトリック教会関係

相生教会、明石教会、秋田教会、秋津教会、浅草教会、麻布教会、市川教会、今市教会社会活動部、今市教会評議会、ウィーン日本語カトリック教会、大阪梅田教会広報委員会、荻窪教会、片瀬教会、金沢教会、上野毛教会、上野毛教会フリーマーケット、神田教会、神田教会教会学校、麹町聖イグナチオ教会、神戸地区社会活動委員会シナビス神戸、香里教会社会活動委員会、小金井教会、小倉教会音楽と祈りの集い実行委員会、坂出教会、鷺沼教会、笹丘教会、三軒茶屋教会、三軒茶屋教会活動グループ楽市、渋谷教会、志村教会、住吉教会社会活動委員会、関口教会、高輪教会、高輪教会被災地支援の会、高輪教会福祉部、高幡教会、立川教会、立川教会被災地とともに歩む小さな手の会、多摩北宣教協力体、多摩教会、多摩教会コルベ会、千葉寺教会、仲知教会、調布教会、土崎教会信徒会、寺尾教会、田園調布教会、田園調布教会大震災復興支援プロジェクト、田園調布教会有志、徳田教会、徳田教会信徒有志、豊四季教会、名古屋教区、名古屋教区社会福祉委員会、習志野教会、習志野教会無人売店タンポポ、西千葉教会、西千葉教会ケーキの会、八王子教会、碑文谷教会、広島司教区平和行事実行委員会、福山教会ミカエルフェスタ実行委員会、府中教会、フランシスカン・チャペル・センター、本郷教会、松戸教会、松原教会、港品川宣教協力体、港品川宣教協力体福祉連絡会目黒教会、門司教会、茂原教会、山手教会チャリティコ

ンサート委員会、由比ヶ浜教会、由比ガ浜教会福祉部、雪ノ下教会震災復興支援プロジェクト、雪ノ下教会中高生会

修道会関係

愛徳カルメル修道会、イエスのカリタス修道女会管区本部、イエスのカリタス修道女会スマールクワイア、イエズス会日本管区本部、援助マリア修道会、幼きイエス会(ニコラ・パレ)管区本部、幼きイエス会ニコラ・パレ修道院、オタワ愛徳修道女会管区本部、お告げのマリア修道会、グアダルペ宣教会、クリストロア修道会神山修道院、汚れなきマリア修道会、コングレガシオン・ド・ノートルダム管区本部、コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院、サレジアン・シスターズ(扶助者聖母会)、サレジオ修道会、サレジアン・シスターズ管区サポートセンター、サレジアン・シスターズ守護の天使修道院、シトー会那須の聖母修道院、純心聖母会、ショファイユの幼きイエズス修道会大阪信愛修道院、聖心会、聖心会三光町修道院、聖心会マリア裾野修道院、聖ドミニコ宣教修道女会東京修道院、聖パウロ女子修道会、聖母訪問会本部、聖マリア修道女会、聖靈奉仕布教修道女会、日本女子修道会総長管区長会、ヌヴェール愛徳修道会、福音史家聖ヨハネス布教修道会、フランシスコ会、フランシスコ会聖ヨゼフ修道院、ベタニア修道女会、ベタニア修道女会聖ヨゼフ山の家、マリアの宣教者フランシスコ修道会、メリノール女子修道会

団体(法人、企業、任意団体ほか)

3.11チャリティコンサート実行委員会、ABC研究会、GDF Suez、ICU OGC合唱団&富士高22合唱団、ILBS 国際福祉協会、JLMMゴスペルクワイア、イエスのカリタス友の会、一般財団法人真生会館、一般社団法人JLMM、カトリック看護協会東京支部、カトリック社会問題研究所、カ

トリック新聞社、カトリック中央協議会社会司教委員会、カトリック東京国際センター(CTIC)、カトリック東京大司教区アレルヤ会、カトリック労働者運動(ACO)東京地区、株式会社佐野製作所、株式会社高垣建築総合計画、カンボジア・オー村子ども支援、氣まぐれ茶屋ちえこ、京都南部ウォーカソン、グループ五つの星、クロックス・ジャパン合同会社、コールポップ、公益財団法人日本ユニセフ協会、桜町聖ヨハネ祭実行委員会、サンパウロ東京宣教センター、塩谷達也 & ALL4ONE、新発田建設株式会社、社会福祉法人力カトリック京都司教区カリタス会総合福祉施設東九条のぞみの園ボランティア会、社会福祉法人慈生会ベトナムの園病院、社会福祉法人聖ヨハネ会、社会福祉法人港区社会福祉協議会、認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい、真生会館カトリック学生センター、スペースセント・ポール、聖イグナチオ教会案内所、小さな美術スクール、東京カトリック聴覚障害者の会、東京災害支援ネット(とすねっと)、東京典礼センターピエタ、ドン・ボスコ社、中和田6、日本国際看護学会第2回学術集会、認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)、福島家族支援実行委員会、ベタニアの家チャリティコンサート実行委員会、ほしのいえ、三日間だけの日本印度会社バザー、みんなでつくるコンサート実行委員会、要約筆記サークル「イサク」、リリーの会、るるるJapan

個人ボランティア数(のべ人数)

単位:人

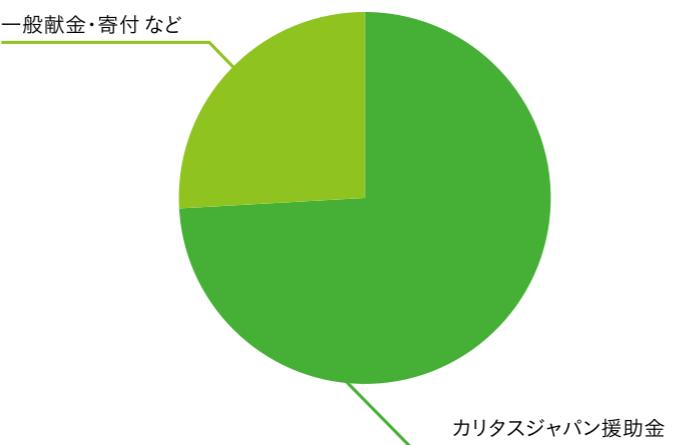
ボラパック	2,494
長期ボランティア	52
イベント 等	225
講演文字起こし・翻訳	33
パソコン要約筆記	46
ボランティア総数(リピーター含む)	2,850

CTVCは、皆様からのご寄付とカリタスジャパンからの援助金により活動を行いました。皆様の想いを被災地にお届けする気持ちで、この10年間活動を行ってまいりました。温かいお気持ちで心から感謝申し上げます。なお、CTVC活動終了時点での繰越金につきましては、2019年にCTVCから独立した一般社団法人大リタス南相馬へ移譲し、引き続き被災地での支援活動のために大切に使わせていただきます。

収入の部

2011年3月～2020年12月

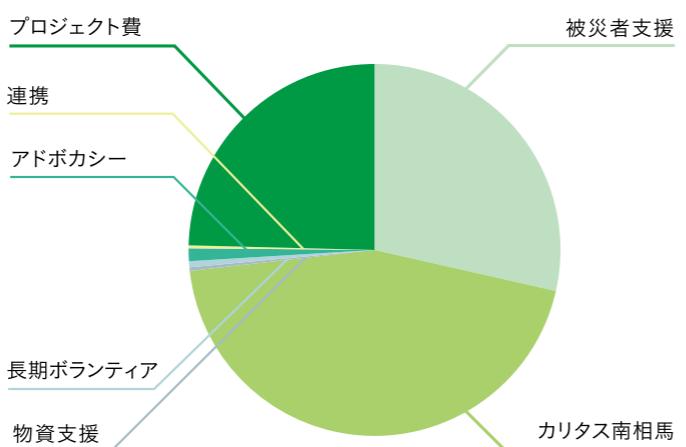
収入		単位:千円
カリタスジャパン援助金	263,835	
一般献金・寄付など ◎ 献金・寄付655口 (個人253口／団体402口)	92,225	
合計	356,060	



支出の部

2011年3月～2020年12月

支出		単位:千円
被災者支援	89,110	
カリタス南相馬	139,355	
物資支援	966	
長期ボランティア	1,650	
アドボカシー	3,448	
連携	804	
プロジェクト費	76,793	
合計	312,126	



事務局長から感謝のメッセージ

東北に通い始めてからしばらく経った時、遠い親戚に会いに行っているような感覚になりました。いつの間にか支援する側、支援される側という垣根を越えた関係性が生まれました。そして、そのような関わりの中にこそ真の喜びがあるのだと確信しました。東北各地で出会ったたくさんの方々、CTVCを支えてくださった方々からいただいてばかりの10年間、ありがとうございました! CTVCスタッフのチームワークも最高でした!

漆原比呂志



運営委員・スタッフ

- 【運営委員／責任者】 幸田和生(東京教区)
豊島治(東京教区)・野坂澄子・渡邊泰男(東京教区)・今井慶(フランシスコ会)・南原摩利(一般社団法人大リタス南相馬所長)
- 【運営委員】 高木賢一(東京教区)・伊能哲大(フランシスコ会)・富中千秋(聖心会)・松本巖(フランシスコ会)・シェガレ・オリビエ(パリ外国宣教者会)
- 【元運営委員】 大垣俊朗・大久保洋・小山菊枝(サレジアン・シスターズ)・永田チエ子(サレジアン・シスターズ)・富中千秋(聖心会／一般社団法人大リタス南相馬)・内田祥子・今川清・渡邊逸子(聖心会)・宝珠山真美・井口紀子(故人)・渕上美穂・恩田智子
- 【元スタッフ】 岩本壽(故人)・桜井和人・石澤毅・齋藤光男・平澤諭
- 【元原町ベーススタッフ】 池上あけみ、富中千秋(聖心会)、早川節子(聖靈会)、久松カズヱ(聖靈会)、前田純、山内康嗣、内藤千早、栗村桂子、山田雅之、南原摩利、吉岡知子、福田仕、菊地綾乃、伊藤望、庄司エルリン

The background of the entire page is a soft-focus photograph of white cherry blossoms (sakura) against a bright blue sky.

CTVC10周年記念誌 「思いつづける3.11」

2021年3月11日発行

発行:CTVC-カトリック東京ボランティアセンター

責任者 幸田和生



この冊子は、カリタスジャパンの援助金により作成いたしました